

平成25年7月26日

大阪経済記者クラブ 各位  
大阪府政記者会 各位  
大阪市政記者クラブ 各位

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

## 平成25年度大阪文化祭賞 受賞者の決定について（ご案内）

大阪府、大阪市及び公益財団法人関西・大阪21世紀協会では、芸術文化活動の奨励と普及を図り、大阪の文化振興の機運を醸成することを目的に、「大阪文化祭」を開催してまいり、50回の節目を迎えました。

今年度は、5月から6月の2ヵ月にわたって大阪府内の各会場で行われた公演等を対象に、独創性に富み、企画・内容・技法が総合的に優れていること等について厳正な審査をいたしました結果、参加公演70件の中から下記のとおり各賞が決定いたしました。

報道関係の皆様方には何かとご多端の恐れ縮ですが、当賞の趣旨に鑑み、広く告知・ご取材等のご協力を賜りたく存じます。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

### 記

#### 1. 平成25年度大阪文化祭賞 受賞者

##### 大阪文化祭賞グランプリ

- ・ 第13回文楽若手会「絵本太功記」出演者一同

「第13回文楽若手会」における「絵本太功記」の成果

##### 大阪文化祭賞

- ・ 京山 小圓嬢（きょうやま こえんじょう）

「一心寺門前浪曲寄席」における「壺坂靈験記」の成果

- ・ 大阪交響楽団

「第176回定期演奏会」における「ハンス・ロット作品」の演奏の成果

##### 大阪文化祭賞奨励賞

- ・ 小林 鈴純（こばやし れいじゅん） 谷 保範（たに やすのり）

「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」における尺八「アキ」の成果

- ・ 林家 染弥（はやしや そめや）

「染弥二十年目 vol. 2～師匠の十八番～」の成果

- ・ 入谷 幸子（いりたに さちこ）

「入谷幸子ピアノ・リサイタル」の成果

- ・ 清原 邦仁（きよはら くにひと）

関西歌劇団第95回定期公演「仮面舞踏会」リカルト役の成果

※参加件数 70件／受賞件数 7件

※副賞賞金として、公益財団法人関西・大阪21世紀協会より大阪文化祭賞グランプリ50万円、大阪文化祭賞15万円、大阪文化祭賞奨励賞5万円が贈られます。

※各受賞者の受賞理由・略歴等は別添資料をご参照ください。

## 2. ご参考

### 1) 大阪文化祭賞とは

大阪文化祭賞の創設は昭和38年にまで遡り、これまで多くの芸術家、実演家が受賞しています。平成13年からは、現在の運営形態である大阪府、大阪市及び財団法人大阪21世紀協会の3者が共同で「大阪文化祭」を開催。関西の著名な芸術家・文化人・ジャーナリストらが審査員となり、第1部門「伝統芸能・邦舞・邦楽」、第2部門「現代演劇・大衆芸能」、第3部門「洋舞・洋楽」の3部門について、期間中に開催する公演を実際に観覧した上で厳正に審査し、大阪文化祭賞グランプリ、大阪文化祭賞、大阪文化祭賞奨励賞を選考しています。

### ※大阪文化祭賞 贈呈式について

大阪文化祭賞の贈呈式を9月上旬に開催する予定です。詳細は改めてご案内いたしますが、特に今年度は50回目を数える節目に相応しい式として特別記念公演なども予定しております。贈呈式には上記受賞者が多数出席し、インタビュー等にお答えいただく予定です。ぜひご出席くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

## ■この件に関するお問い合わせ・ご連絡先■

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会  
事業チーム 山本（茂）

TEL 06-6942-2004 FAX 06-6942-5945

E-mail yamamotos@osaka21.or.jp

〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町1-1  
大阪キャッスルホテル4階

## 《各受賞者の受賞理由・略歴》

### 大阪文化祭賞グランプリ 1件

#### 第13回文楽若手会「絵本太功記」出演者一同(だいじゅうさんかい ぶんらくわかてかい えほんたいこうき しゅつえんしゃいちどう)



写真=国立文楽劇場提供

い えほんたいこうき しゅつえんしゃいちどう

#### (第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

文楽界のホープたちが『絵本太功記』で、鍛練の成果を存分に発揮。時代物の名作の劇世界をしっかりと表現し、緊張感と重厚さのある渾身の舞台を繰り広げた。特に、「尼ヶ崎の段」の豊竹咲甫大夫と鶴澤清志郎が、力強く丁寧な語りと三味線を聞かせ、武智光秀を遣った吉田玉佳、操の吉田一輔、武智十次郎の吉田玉勢ら人形陣も奮闘。大阪が生んだ伝統芸能・文楽の未来を担う、若い世代の成長を高く評価し、激励を込めて、グランプリを贈る。

【略歴】文楽若手会とは、人形浄瑠璃文楽座の若手技芸員の技芸向上を目的に、平成13年に発足。今年で13回を数える。

[受賞]平成13年度咲くやこの花賞 吉田玉佳、平成15年度大阪舞台芸術新人賞 鶴澤清志郎、平成21年度大阪文化祭賞奨励賞 豊竹咲甫大夫、平成21年度咲くやこの花賞 吉田一輔、平成22年度大阪文化祭賞奨励賞 吉田一輔、平成22年度咲くやこの花賞 豊竹咲甫大夫。

### 大阪文化祭賞 2件

#### 京山 小圓嬢(きょうやま こえんじょう) (第2部門：現代演劇・大衆芸能)



初舞台から66年。年齢を重ねるごとに芸に深みが増し、全身からは熱い情念がほとばしる。演題「壺坂靈驗記」では、大河のごとくゆったりとした節の運びと、大ベテランらしいめりはりの利いた台詞、心の琴線に触れるリズムの絶妙な兼ね合いで酔わせた。関西浪曲界の牽引役。平成6年より始まった「一心寺門前浪曲寄席」も20年目に入った。地道な努力の積み重ねや、若い世代を積極的に登用し、育て上げてきた功績も高く評価したい。

【略歴】昭和21年 京山小太夫に師事、芸名 京山小福。昭和23年3月 九州 大博劇場にて初舞台。昭和41年 菊地容子と改名。昭和46年 二代目京山小圓嬢襲名。昭和61年4月(社)浪曲親友協会理事就任。平成10年4月 (社)浪曲親友協会常務理事就任。平成23年7月(公社)浪曲親友協会常務理事就任。現在に至る。

[受賞]平成11年 大阪府知事表彰受賞。

## 大阪交響楽団 (おおさかこうきょうがくだん) (第3部門：洋舞・洋楽)



©飯島隆

演奏される機会に恵まれない作品に焦点を当てた同交響楽団のプログラミングは、すっかり定着した感がある。マーラーと同時代に生きながら早去した不遇の作曲家ハンス・ロットの楽曲を並べて同交響楽団は清新かつ活達に演奏した。とりわけ「交響曲第1番」には、時代のおののきが刻印され、作曲家の豊かな才能の片鱗をのぞかせている。作品の持つ価値を正当に評価し、現代に蘇えらせた常任指揮者寺岡清高の手腕も注目したい。

**【略歴】**1980年創立。楽団代表・敷島博子が『聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を！』をモットーに提唱。いつも聴衆を“熱く”感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」と評されている。2008年4月、児玉宏氏が音楽監督・首席指揮者に就任。2004年1月から正指揮者を務め、2011年4月より常任指揮者に就任した寺岡清高氏(2000年ミトロポーロス国際指揮者コンクール優勝)とともに、楽団のさらなる飛躍が期待されている。2006年4月、大和ハウス工業株式会社代表取締役会長 樋口武男氏が運営理事長に就任。2010年4月、楽団名を「大阪交響楽団」と改称(旧 大阪シンフォニカー交響楽団)。2012年4月、大阪交響楽団は一般社団法人となる。同4月、四国支局を開局。CDは、「ブラームス交響曲全集」と、公益財団法人ロームミュージックファンデーションの助成により、「児玉宏のディスカヴァリー・クラシックシリーズ」5タイトルをリリース(いずれもキングレコード)。楽団公式ホームページ(<http://www.sym.jp>) (2013年7月現在)。

**【受賞】**1990年大阪府知事表彰。1991年、1993年、1999年、2000年と4回の大阪文化祭賞を受賞。2008年1月 平成19年度(第62回)文化庁芸術祭「芸術祭優秀賞」を受賞。2008年7月 平成20年度「堺市栄誉賞」を受賞。2010年1月 平成21年度(第64回)文化庁芸術祭「芸術祭大賞」を受賞。2009年7月 平成21年度「堺市功績団体」として堺市より表彰される。

## 大阪文化祭賞奨励賞 4件

小林 鈴純 (こばやし れいじゆん) 谷 保範 (たに やすのり)

### (第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

尺八というシンプルながら普段あまり日の目を見ない邦楽器の演奏家である小林鈴純と谷保範は、確かなテクニックと深い曲の解釈で現代曲「アキ」を演奏、緩急すぐれた間あいでこの哲学的な曲を見事に昇華してみせた。古典の奏法に現代的な表現を融合させ、あまり世間に広く知られていない尺八音楽の魅力を伝えた功績に対し、奨励賞を贈り、今後、若い世代に尺八音楽をさらに広めていってほしいとの期待も込めた。



**小林 鈴純** (こばやし れいじゆん) :

**【略歴】**6歳から生田流宮城会で箏を習う。10歳から琴古流尺八を父小林一城・米村鈴笙に師事。15歳から重要無形文化財保持者(人間国宝)二代目青木鈴慕に師事。NHK邦楽技能者育成会53期卒業。関西学院大学商学部卒。平成22年度財団法人地域創造、邦楽地域活性化事業参加。尺八奏者としての他、製管(尺八製作)も行う。日本三曲協会 琴古流協会会員、琴古流鈴慕会師範。大阪在住。

**【受賞】**2011年 長谷検校記念 第17回くまもと全国邦楽コンクール奨励賞受賞。



谷 保範（たに やすのり）：

【略歴】6歳より父・二代目谷泉山に尺八の手ほどきを受ける。15歳より琴古流尺八を小林一城、人間国宝青木鈴慕各師に師事。28歳より古典本曲を石川利光師に師事。上田流尺八道家元代講師 大師範 泉山会主宰。邦楽アンサンブルふあるべ 同人。クラブ倶楽部 同人。関西を中心に舞台、学校公演等に出演。大阪在住。

【受賞】2005年・2007年～2009年 上田流尺八全国技芸審査会一位。2008年 長谷検校記念 第14回くまもと全国邦楽コンクール優秀賞受賞(尺八・笛音楽部門一位)。2011年 長谷検校記念 第17回くまもと全国邦楽コンクール奨励賞受賞。2011年 第12回日本伝統文化振興財団邦楽技能者オーディション合格(ビクターよりCD発売)。2012年 NHK邦楽オーディション合格。

## 林家 染弥（はやしや そめや） （第2部門：現代演劇・大衆芸能）



3席とも導入のマクラにも工夫を凝らし、真摯かつ意欲的な取り組みを感じさせる会となった。「辻占茶屋」の前半は下座のハメモノと息を合わせ華やかに演じ、後半の心中場面まで緩急巧みに盛り上げる。師匠・林家染丸の芸風を継承しつつ、染弥自身のオリジナリティーも随所に表出。また、この日一番の仕上がりとなったのが「幸助餅」である。特に、女将の凛とした強さと情け深さを見事に体現。女性の描き方に、確かな進歩のあとが見られた。

【略歴】1993年4月 大阪産業大学入学。1994年7月 四代目林家染丸に入門 同時に大学を中退。1994年8月 「染弥」と命名される。1994年12月 難波・トリイホールにて初舞台 演目は「東の旅・発端～煮売屋」。2003年 独演会「染弥の会」をスタート 第3回まではトリイホール、4回5回はワッハ上方演芸ホール、6回以降は天満天神繁昌亭にて現在も継続中。2008年2月 「伝統と先進の共生」への貢献が評価され、京都市教育委員会より表彰される。2010年8月 三重県津市 あげぼの座にて8時間耐久落語会を実施、1人8時間16席演じ切り話題となる。

【受賞】第41回なにわ芸術祭 落語部門 新人奨励賞(2004年)。

## 入谷幸子（いりたに さちこ） （第3部門：洋舞・洋楽）



本公演は選曲・演奏解釈ともに練り上げられた、まことに素晴らしいものであり、数多くの聴衆に深い感動を与えたに違いない。とりわけ後半のシューベルトのピアノ・ソナタ第19番で示された、多様なニュアンスを駆使して、時には美しく、そして時には恐ろしくこの作品の世界を見事に描き出す手腕は、高く評価されるべきものだ。ともあれ、本公演は今後のさらなる活躍を大いに期待させるものであり、大阪文化祭賞奨励賞に相応しい。

【略歴】兵庫県立西宮高等学校音楽科卒業。京都市立芸術大学音楽学部を経て、同大学大学院修士課程音楽研究科修了。宝塚市国際文化課より奨学金を得て、渡独。2011年ドイツ国立ミュンヘン音楽・演劇大学大学院マイスタークラスを修了。これまでにピアノを宇治田勉世、出口美智子、故片岡みどり、坂井千春、田隅靖子、松田康子、故 Franz Massinger の各氏、室内楽を Friedemann Berger 氏に師事。

【受賞】第47回全日本学生コンクール大阪大会第3位。第12回宝塚ベガ音楽コンクール第4位(第2位なし)。第11回日本クラシック音楽コンクール全国大会最高位。第1回神戸芸術センター記念コンクール感動賞受賞。第65回ジュネーヴ国際音楽コンクールにおいてディプロマ受賞。2011年度スタインウェイ賞受賞(ドイツ)。その他、国内外の数々のコンクールにおいて入賞。



清原 邦仁 (きよはら くにひと) (第3部門：洋舞・洋楽)



清原邦仁は、関西歌劇団第95回定期公演「仮面舞踏会」の主演テノール、リッカルドを演じた。ポストンの総督で部下の妻を愛するという信頼と裏切りの重層する役柄である。清原は、清涼な歌唱によって登場人物の生き方に方向性を与え、私的な愛の世界を越えて、死を賭して公義を貫く潔さを表現した。その毅然とした歌唱スタイルは、将来への大いなる期待と可能性を秘めて奨励賞に相応しい。

**【略歴】** 大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業。同専攻科修了。同大学院オペラ研究室修了。関西の主要プロダクションのみならず、日本各地のオペラ公演にソリストとして出演。これまでに「フィガロの結婚」ドン・バジリオ、ドン・クルツィオ「コシ・ファン・トゥッテ」フェルランド、「魔笛」モノスタトス、「ドン・パスクワレ」エルネスト、「ランメルモールのルチア」エドガルド、「リゴレット」マントヴァ公爵、ボルサ、「イル・トロヴァトーレ」マンリーコ、「ファルスタッフ」フェントン、バルドルフォ、「ラ・ボエーム」ロドルフォ、「ヘンゼルとグレーテル」魔女、「こうもり」アイゼンシュタイン、アルフレード、「メリー・ウィドウ」カミーユ、カスカーダなどの幅広いキャラクターの役柄を好演。2006年夏、イタリア：トッレ・デル・ラーゴ：プッチーニフェスティバル「蝶々夫人」においてゴローを演じ、各紙で好評を得た。2011年には東宝帝国劇場100周年記念ミュージカル「レ・ミゼラブル」に司教、レーグルとして出演。オペラのみならず数多くの宗教曲、合唱曲のソリストをつとめる。

**【受賞】** 平成17年度大阪舞台芸術新人賞受賞。

※写真はデジタルデータもございます。ご入用の際は E-mail でお送りいたしますので、上記事務局まで電話または E-mail にてご連絡ください。

以上